

成績評価基準

1. 授業の履修について

授業は、講義・演習・実習もしくは実技のいずれか又はこれらの併用で行うものとする。

授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外で履修させることができる。

2. 単位について

授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習にあつては、15時間から30時間をもって1単位とする。

(2) 実習・実技にあつては30時間から45時間をもって1単位とする。

(3) 一つ授業科目について、講義若しくは演習または実習若しくは実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、(1)及び(2)の基準を考慮して本校が定める時間の授業をもって1単位とする。

3. 定期試験等

(1) 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。

(2) 学業成績は、上記(1)のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。

4. 学業成績の判定

学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。

学業成績の判定および評価、成績証明書の表記は、下記の表のとおり。

| 判定 | 評価点 | 成績評価 | 成績証明表記 |
|-----|----------|------|--------|
| 合格 | 100点～90点 | 秀 | 秀 |
| | 89点～80点 | 優 | 優 |
| | 79点～70点 | 良 | 良 |
| | 69点～60点 | 可 | 可 |
| 不合格 | 59点以下 | 不可 | 非表示 |

5. 単位の授与

授業科目を履修し、各科目の成績を判定のうえ、秀、優、良、可を取得したものには所定の単位を与える。

客観的な指標（G P A）の算出方法

1. 指標

成績評価における客観的指標として、G P A（Grade Point Average）を用いる。

2. 成績評価と GP

授業科目の成績は、下記の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、下記のとおり G P（Grade-Point）を与える。

| 成績評価 | GP | 評価点 | 備考 |
|------|----|----------|-----|
| 秀 | 4 | 100点～90点 | |
| 優 | 3 | 89点～80点 | |
| 良 | 2 | 79点～70点 | |
| 可 | 1 | 69点～60点 | |
| 不可 | 0 | 59点以下 | |
| 認定 | — | — | 対象外 |

3. G P A算出方法

$$G P A = \frac{\text{(科目の単位数} \times \text{当該科目で付与されたG P) の合計}}{\text{履修科目の単位数の合計}}$$

※小数点以下第2位四捨五入

【算出例】

| 科目 | 単位 | 評価 | G P | 単位数×G P |
|--------|----|----|-----|---------|
| A（履修） | 1 | 可 | 1 | 1 |
| B（履修） | 1 | 不可 | 0 | 0 |
| C（履修） | 2 | 優 | 3 | 6 |
| D（履修） | 1 | 秀 | 4 | 4 |
| E（履修） | 4 | 可 | 1 | 4 |
| F（履修） | 1 | 良 | 2 | 2 |
| G（履修） | 2 | 良 | 2 | 4 |
| H（履修） | 1 | 認定 | — | — |
| 履修科目合計 | 12 | | | 21 |

$$G P A = \frac{21 \text{ ポイント}}{12 \text{ 単位}} = 1.8 \text{ (※小数点以下第2位四捨五入)}$$